

地震による 火災を防ぐために

地震でこわいのは火災による二次災害です。たとえ小さな揺れでも、必ず火の始末をしましょう。万一、火が出たときは初期消火に努めてください。消火は最初の3分間が勝負です。ただし、一般の人が消火できるのは天井に火が回るまで。それ以上燃え広がった場合は危険ですから、消防士にまかせましょう。

初期消火 の 3原則

早く知らせる

小さな火事でも一人で消そうとしない。大声で隣近所に助けを求め、ただちに119番通報する。

早く消火する

ボヤのうちに消し止められるかどうか分かれ目。消火器や水だけでなく、毛布でおおうなど手近なものをフル活用する。

早く逃げる

天井に火が移ったら、いさぎよくあきらめて避難を。その際、燃えている部屋のドアや窓を閉め、空気を遮断する。

火元別初期消火の方法

油なべ



あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がないときは、濡らした大きめのタオルなどを手前からかけ、空気を遮断します。

石油ストーブ



真上から一気に水をかけます。石油がこぼれて広がっていたら、毛布でおおってから水をかけて消火。

衣類



着衣に火がついたら、転げ回って消火。髪の毛の場合は化繊以外の衣類やタオルなどを頭からかぶります。

風呂場



火勢が強まる危険があるのですぐ戸を開けるのは禁物。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火。

電気製品



いきなり水をかけると感電の可能性が。プラグを抜いて(できればブレーカーも)、消火を。

カーテン・ふすま



火がついたら大変危険。引きちぎり、蹴り倒して火を天井から遠ざけることが先決です。

火災からの避難 7つのポイント

1

天井に火が移ったときが避難の目安



2

避難はお年寄り・子供・病人を優先



3

服装や持ち物にこだわらず、できるだけ早く避難する。



4

ちゅうちょは禁物。炎の中は一気に走り抜ける



5

炎の中を逃げるときは、できるだけ姿勢を低くして



6

いったん逃げ出したら、再び中には戻らない



7

逃げ遅れた人がいるときは、近くの消防隊にすぐ知らせる



日頃からの火災予防を心掛けよう

1 火を使う器具設備の点検と整備をする



- 火気使用器具に故障や欠陥はないか点検、整備しておく。
- 安全装置は付いているか、ちゃんと作動するかをチェックしておく。
- ふだんから火気使用器具の正しい使い方を習慣づける。
- 火の回りに燃えやすいものがないように整理整頓しておく。

2 可燃性危険物の管理に十分注意する

- 灯油、ベンジン、アルコール、スプレー、食用油、塗料など燃えやすいものは、転倒しないように置き、火元から十分離す。
- プロパンガスのボンベは、倒れないように鎖で止め、使い終わったら元栓を締める。



3 消火器や消火用水を用意しておく

- 消火器や三角バケツなどを用意、また、風呂の水はいつもためておくようにする。
- 万一のときにうまく消火できるよう、防災訓練などで消火器の使い方を練習しておく。

